

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目の や 等）から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
.理念に基づく運営	22
1.理念の共有	3
2.地域との支えあい	3
3.理念を実践するための制度の理解と活用	5
4.理念を実践するための体制	7
5.人材の育成と支援	4
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1.一人ひとりの把握	3
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作	3
3.多機能性を活かした柔軟な支援	1
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協	10
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1.その人らしい暮らしの支援	30
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
.サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

【取り組みの事実】

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

【取り組んでいきたい項目】

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

【取り組んでいきたい内容】

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容、事実があれば、それを含めて記入します。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】（アウトカム項目の後にある欄です）

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営、運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者、職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（1から 87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（88から 100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	扇寿苑グループホーム
（ユニット名）	扇寿苑第一グループホーム
所在地 （県・市町村名）	秋田県大館市比内町
記入者名 （管理者）	高橋良胤
記入日	平成21年10月2日

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営			
1.理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者が日々を充実して暮していただけるように理念を掲げている。	理念に向けて更に努力、実践していく
2	理念の共有と日々の取り組み 運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営者、管理者、職員共に様々な取り組みをし、実践している。	まだまだ取り組みは十分とは言えずこれからも満足する事無く努力していく。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	事あるごとに運営理念をわかり易い言葉にして伝え理解、協力をお願いしている。	家族や地域の人々に理解してもらおうよう更に取り組む努力が必要である。
2.地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	隣近所の方と会う機会がないが近所へ来られた方には挨拶をするように心掛けている。しかし、気軽に立ち寄ってもらえるような付き合いまでは至っていない。	気軽にホームへ立ち寄って頂けるような関係を築いていく。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	最近は盆踊りに参加したり、地元の花火大会に出かけたり、又老人クラブに出かけ職員が講座を開催したりしている。	益々交流できるよう努めていく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6 事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域包括センターの職員と共に認知症予防活動に出かけたり、家族から地域の老人についての相談を受けたりしている。		職員一人一人が地域の方と交流出来るよう努力する。
3.理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を生かして日々改善に向け努力している。		研修等を通じ更に改善に取り組んで行きたい。
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会で沢山の意見を頂き更なる改善に取り組んでいる。		全ての要望にこたえるにはまだまだ難関が多いが更に努力していく。
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市長村担当者は協力的であって助言を頂いている。		担当者とは更にサービスの質向上に取り組んでいきたい。
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	法人として職員に向けた研修を設けたりして学ぶ機会を持ち活用できるようにしている。		職員各人が自己研修に励み学んで生きたい。
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ケースカンファレンスなどで学ぶ場を持ち見過ごされないよう話し合い、防止に努めている。		これからも自己を振り返りながら支援をしていく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4.理念を実践するための体制			
12 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退所時に十分な説明を行い納得して頂いた上で決定している。		退居後の支援として地域や家族との連携をとり不安を取り除くような支援をしていく。
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の要望等は職員間で共有、記録しサービス提供に取り入れている。		意見を言えない方にはコミュニケーションを測り確認をしながら理解して頂けるよう努め意見をどんどん反映させていく。
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月のお便りを発行しまた個人別に御家族へお手紙を書き暮らしぶりや健康状態を報告している。金銭管理は面会時に小遣い帳の確認をして頂いている。		遠方の家族にも都度電話し報告している。職員の異動に関しては都度お便りにてお知らせをする。
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置、面会時や電話での様々な相談に応じられる用意や配慮、第三者委員を設けている。的確に対応できるよう、職員の勉強会も設けられている。		不満、苦情等を気軽に話していただけるような雰囲気作りを心がけ、即、処理していく。
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	回数は少ないが運営者に意見が届くよう管理者を通し反映している。		職員の意欲向上のためにも、話しやすい環境づくりを今後も続けていく。
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	要望、緊急時に対し、全職員が対応できるよう連携している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>18 職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動は最小限にし、利用者に影響しないよう配慮している。</p>		<p>馴染みの関係が続けていけるよう努力している。</p>
<p>5.人材の育成と支援</p>			
<p>19 職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員の勉強会、研修が計画的に行われており、自己、内部研修が必ずもうけられ、実践されている。</p>		<p>今後、もっと、計画的に活動意欲を高められるような努力をしていきたい。</p>
<p>20 同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>他事業所や、地域の行事にも参加させて頂き、合同での勉強会、行事の為に準備等も行われ、交流の機会を持った。</p>		<p>同業者とのネットワークづくりに努力していきたい。今後も積極的に取り組んでいきたい。</p>
<p>21 職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員同志気軽に話し合える環境ではあるものの、ストレス軽減にまでは至っておらず職員が休める環境が必要。</p>		<p>休憩場所が確保出来ていない。</p>
<p>22 向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるよう努めている</p>	<p>勤務実績に応じ、研修、資格取得を奨励し、各自が向上心を持てるよう支援している。</p>		<p>資格取得、研修等に各自が意欲が持てよう取り組んでいる。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>事前面談時、職員、家族等を交え、本人の悩みや、困りごと等の相談に応じている。</p>	<p>安心して入居して頂けるよう丁寧、細やかな対応、本人の生活歴、日常生活をある程度、把握し、対応時に役立てられるようにしている。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ご家族の抱えている悩み、問題等に関し、当法人内の他部門、市町村の協力も得ながら時間をかけて話し合いの場を設けている。</p>	<p>ご家族様だけでなく、ご本人に関わる全ての関係者に信頼して頂けるような組織づくりに心掛けています。</p>
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人、家族の要望等、当事業所で対応不可な場合は、的確な他事業所を紹介している。</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前の見学を行い、ショートステイを利用できる場合は利用いただき、馴染める機会を極力つくっている。</p>	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>ご本人の残存能力を見出し、自信が持てる様にさりげない支援をし、利用者自身が職員などに教えて頂ける場面を引き出すなど協同作業等を通し、信頼関係を築いている。</p>	<p>本人の意欲、経験からの活動力を引き出し、共に支え合うように支援していく。</p>

扇寿苑グループホーム

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様が疎遠にならないよう、連絡を密にし、積極的な呼びかけ、面会、外出等を奨励している。		いつでも気軽においでいただき、利用者さんの状態を理解され、生活の支えになっていただきたい。
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族様が本人にとって何よりの支えになっており、大事な関係である事を家族、職員が共に認識し、いつでも気軽に連絡を取り合ってもらえる様支援している。		本人にとって、何より大事な家族の訪問、話しかけが必要である事を常に伝えていきたい。
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	会いたい家族には直ぐ連絡することが出来行きたい場所には出かけられる状態にある。		馴染みの関係が途切れないよう本人から要望がなくても職員が支援していく。
31 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	それぞれ利用者さんにとって楽しく会話したりできるよう空間を工夫している。		職員が間に入ることで益々利用者同士が交流できるよう支援していく。
32 関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービスが終了しても訪れていただけるよう伝えている。		契約終了後も地域の相談役として親交を継続していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者の気持ちに近づけるようコミュニケーションを取りケアに活かし、意思疎通が困難な方でも職員から積極的にアプローチしている。</p>	<p>職員個々のコミュニケーション技術を向上させる。</p>
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入所時から早めの時点で本人や家族に生活歴を伺いバックグラウンドアセスメントに残しサービスにつなげている。</p>	<p>利用者本人が忘れていても記録がある事でコミュニケーションが取れるようにしていきたい。</p>
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>本人のその日の状態や力量を職員が見極めをし、笑顔で取り組めることを提案している。</p>	<p>本人が出来ることは部分的ではあっても、参加できる環境を準備している。</p>
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画には本人の希望、家族の意見、スタッフの気付きなどを取り入れ作成している。</p>	<p>本人と家族の要望に違いがある時は折り合いの付くような提案をしている。</p>
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>期間ごとの見直しは随時行い、又急な状態変化にはその都度家族に報告すると共にサービスの内容変更を伝え作成している。</p>	<p>臨機応変なサービス計画に繋げたい</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録は出来るだけ詳細に記入し情報を共有できるようにしており個別ケアや計画の見直しに役立っている。		記録を読むことによって変化にいち早く気づき対処していく。
3.多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人家族から突然な要望があってもその時々々に合わせ対応して行くよう心掛けている。		唐突な行動であっても本人の気持ちに沿って対応していくようにする。
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関、医療機関等と協力しながら支援している	気軽に電話で相談できる事業所の協力医、地区の小中学校との交流などがあり地域の方にはホームの役割を発進する機会を設けている。		地域の方には認知症に対する理解を深めていただきたくホームだよりなどを活用、発進し協力を得て行きたい。
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	敷地内の他事業所のケアマネが尋ねてくれたり、他事業所の理容師が気軽にサービスに応じてくれる。		地域ボランティアを気軽に受け入れしていきたい。
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとは協働できる体制にある。		地域包括支援センターと協力できるよう体制づくりに努めたい。

扇寿苑グループホーム

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している		鑑別審査されていない利用者については状況を勘案し本人、家族と相談の上専門医を受診できるよう支援していく。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている		かかりつけ医との連携、協力体制が整っているので必要時すぐに相談できる。また同敷地内に看護職員がいるので協力体制を取り合いたい。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している		空きベッド利用を活用、ショートステイの利用の体制をとっているため、退院後の居場所を確保ながら安心して治療して頂いている。
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている		ターミナルケアはやっていないが、看護職員の配置があれば検討していく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、本人及び家族に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	各関係者、家族間で十分な話し合いを行い、本人の暮らしの継続を図れるように最良の手段を検討している。		本人に関する細かな情報（状態、習慣等）を伝達し、不安を取り除けるよう配慮していく。
<p>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1.その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	大きな声で呼びかけたり、個人のプライバシーが他利用者に伝わることはないように常に配慮し、声掛け対応している。記録等の扱いにも気を配っている。		一人ひとりを尊重し、プライバシーの確保に常に配慮していく。個人情報には慎重に取り扱っていく。
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を「尊厳の保持」に配慮して行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	わかりやすい言葉で話し、本人の思いや希望を表出できるように働きかけを行っている。また、言葉で意思表示できなくても、表情・言動等で思いの把握に努め、自己決定して頂いている。		ゆっくりとした態度で接し、本人の思いを引き出す為の言葉掛けや納得できるようなコミュニケーション方法をとっていく。
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の生活を決められた日課として過ごすのではなく、利用者がしたいと思ってることを大切に、希望に添って活動しやすい状況を提供、支援している。		意思表示、自己決定が困難な方にはいろいろな選択肢や活動しやすいように言葉掛けをしながら、その日の過ごし方を決定していく。
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	その人らしさを大切にした支援を行っており、希望時には昔なじみの理美容院に行けるよう支援している。		他事業所の理容師が気軽に訪れてくれるので、出かけることが困難な方には希望に応じて個別に支援している。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の力量に合わせ、調理段階から関わって頂き（調理・盛り付け・配膳、後片付け等）、職員も一緒にテーブルを囲み、食事を共にしている。		利用者と共に買い物に出かけ、食事準備段階から一緒に行って頂けるよう支援したい。
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	嗜好品は希望によって一緒に買い物したり、職員が購入、又は家族が持参してくれ、一人ひとりの楽しみの支援を大切にしている。		希望時、利用者と一緒に買い物に出かけたりし、本人の嗜好に合わせたものを提供できるように支援していく。
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう「尊厳の保持」に配慮して支援している	一人ひとりの排泄習慣を把握するようにしており、本人の意思を大切に自然なタイミングで声掛け誘導したりし、気持ちよく排泄できるよう努めている。		排泄誘導等、介助に関する声掛けはプライバシー・羞恥心に配慮し、声掛けの大きさに注意する。
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しめるように支援している	受診前や失禁後、作業で汗をかいたり等、状況に応じた自然なタイミングを逃さないように工夫したり、利用者同士誘い合っている。		入浴時間等、一人ひとりの意思に応じ、入浴を楽しめるように支援している。
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	自室で自由に休んだり、その時々体調を勘案し、休息・睡眠を勧めている。また、夜間安眠の為に声掛けしたり、活動量を増やす支援をしている。		活動の様子、睡眠の様子を把握し、適宜休息できるよう声掛け行っている。また、昼食後の休憩も職員と一緒にとっている。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	趣味の継続、家事、買い物、おしゃべり等、個々の力が表現できるよう支援している。		自己表現できない方にも職員から積極的に働きかけをし生きがいを見出していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	たとえ忘れても金銭を持つことを家族も理解し自己管理している入居者もあり。現金を持たない入居者でも買物は自由に支援している。		今まで同様、希望に添いお金は自由に使えるよう支援していく。
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	苑外へのドライブ、散歩等自由に外出できるように支援している。		各自の状態に合わせ希望に添った支援をしていく。
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節毎の行事や催し物に参加し、家族に付き添っていただいたり利用者同士誘い合い出かける機会を支援している。		利用者の行きたい所への要望を今後も取り入れていく。
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要請があれば、いつでも電話で話しをして頂いている。		本人の要望がなくても、こちらから手紙・電話をし家族とのやり取りを支援していく。
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は自由である。訪問時には気軽に面会できるよう家庭的な雰囲気作りに努めている。		職員ともなじみの関係になって頂きくつろぎ感のある家庭的イメージ作りで、訪問しやすい工夫をしていく。
(4)安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スピーチロックを含め身体拘束はしてはいけない事を職員間で常に意識して支援に努めている。		入居者の自由を支援する。

扇寿苑グループホーム

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	屋内・外の出入りを自由に出来るように常に開放感のある空間作りを心掛けている。		自由に屋内・外の出入りが出来るよう鍵を掛けない。(散歩・草取り時、同伴し見守る)
67 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	各個人の様子を無理なく観察し安全に生活できるよう支援している。		室内外における行動に常に気を配りできる工夫をして安全を考えていく。
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	状況に応じて利用者ごとに必要か、危険か判断し話し合い、防止策をとっている。		危険性があると思われるものについては早めに予測し都度検討し対処していく。
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	予測可能なリスクを話し合い、マニュアル化し事故防止に取り組んでいる。		常に問題が生じたら話し合いし早めに事故防止策を考えていく。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行っている	消防署主催の救急救命講習に職員が自主的に参加し実践訓練している。		事故発生時のマニュアル通りに実践できるよう確認作業をしていく。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は地域の事業所と市のネットワークの連携で訓練を行っている。		定期的に訓練を行って、安全に避難できるよう努めていく。(特に水害時避難について)

扇寿苑グループホーム

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72 リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	リスク等については家族・本人にその都度説明し納得いただき窮屈にならないようケアをしている。		対応策は家族だけでなく、本人に理解いただくよう努力していく。
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日常の体調管理に努め、急変時や受診と判断した際には迅速に対応している。また、医師には利用者の状態を随時報告している。		体調の変化の早期発見に努め、不調が長引く事のないように支援していく。
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬リストを個人毎に分かりやすくしており、追加・臨時薬も掲示し、誰が何を飲んでいるか把握に努めている。また、経過観察は細かく医師に報告し指示を仰いでいる。		利用者に合わせて飲み方を工夫し、確実な服薬を支援していく。
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便困難な方には、特に食べ物に気を配り、自然排便を促している。また、自発的に運動される方もおり、身体負担ない程度に支援している。		できるだけ薬に頼らないよう生活習慣の見直しにも取り組んでいく。
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食毎にはできないが、声掛けにより自発的に行って頂いたり、就寝前には義歯洗浄及び、消毒液（イソジン）でうがいをを行い、口腔内の清潔保持に努めている。		自力で行えない方にも職員が介入し歯みがき・うがい・義歯洗浄できるよう支援に努めていく。
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の食物摂取量、水分摂取量を把握しており、不足と思われる場合は体調を伺った上で、代用の物を準備・提供している。		記録で把握し体調管理に努めている。

扇寿苑グループホーム

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症に対するマニュアルがあり、定期的に全職員で対策を確認しあい、職員らが感染源とならないよう配慮している。内部研修を通して学習もしている。		面会時にはマスク着用もお願いし、手洗い・うがいも徹底している。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は、冷蔵保存し24時間以内に使い切るようにしている。調理器具は毎晩消毒している。		消費期限の切れた物や、食べ残しはその場で処分する。
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りに花を植え、季節感を大事にしている。		建物周囲の清掃は職員と利用者で行い、草取りも利用者中心にまめにしている。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間は利用者同士がくつろぎやすいように椅子を配置し、季節の花を飾ったり自分達の作品を眺めて会話が弾むように配慮している。		トイレに窓がない為換気が良いとは言えず、消臭剤などを使用しながら快適に使えるようにしている。また、トイレマットも使用し、清潔を保っている。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者それぞれが気に入っているスペースがあり、思い思いの場所で自由に過ごしている。		気の合う者同士が集える場を確保し、孤立しないよう配慮している。

扇寿苑グループホーム

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>83</p> <p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室内への持ち込みは自由なので、本人の希望に合った使い慣れた物を使用している。</p>		<p>居室内の家具やベッド位置の配置は、本人の希望や技量に合わせて配置している。</p>
<p>84</p> <p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>冷暖房の温度調節はこまめに行い、本人の希望に合わせている。</p>		<p>利用者の要望によって温度の調節を行っている。</p>
<p>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>			
<p>85</p> <p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>歩行に支障がないような配置を工夫したり、個々の動線に合わせた動きが取れるよう場所も確保している。</p>		<p>歩行の妨げになるような物品を置かないよう心掛けている。</p>
<p>86</p> <p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>混乱や失敗を未然に防ぐ努力をしており、本人の意欲を引き出す工夫をしている。</p>		<p>一人ひとりの残存能力を生かし、出来るだけ自立した生活を営んでいただく。</p>
<p>87</p> <p>建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>中庭で洗濯物を干したり、景色を眺めて楽しみながらお茶会を開いたりしている。</p>		<p>玄関周りのプランターや裏庭の野菜畑の手入れ、苑庭の草取り等、活動の場を提供している。</p>

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

.サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・入居者それぞれの力を引き出し、日々生き生きと生活できるような支援を常に模索している。
- ・立地場所が市街地から離れている為、地域住民とは疎遠になりがちだが、最近は職員の頑張りにより、地域の中に出かける機会を増やしたり、認知症サポーター講座を開催するなど少しずつ地域とのつながりが出来てきている。
- ・何よりも利用者自身が生き活きと笑顔で生活でき、その影で努力を続ける職員がすばらしい。